

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	① 各拠点を結ぶ道路網の整備
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	情報通信技術の活用による交通の円滑化			
対応する主な課題	②道路は県民生活や経済活動を支える上で重要な役割を果たしているが、広域交流拠点と各圏域拠点間の有機的な連結が実現しておらず、交通渋滞が慢性化している状況であることから、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築が必要である。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
道路における交通の安全と円滑を確保するため、交通信号機の新設・改良・更新、交通管制システムの充実・高度化、管制エリアの拡大及び信号機の集中制御化、高度道路交通システム (ITS) の整備に取り組み、交通安全環境の整備を推進する。		H29	H30	R元	R2	R3
		交差点信号機の集中制御				789基 (累計)
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	警察本部交通部交通規制課		【098-862-0110】			
		交通管制システムの高度化				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 交通安全施設整備事業費 (補助事業)							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：道路における交通の安全と円滑を確保するため、交通信号機の改良・更新・集中化等259か所の整備を行った。 OR3年度：道路における交通の安全と円滑を確保するため、引き続き、交通信号機の改良・更新整備等を行う。	
各省計上	直接実施	1,122,905	657,865	654,115	674,737	1,030,397	943,049	各省計上		
予算事業名 交通安全施設整備事業 (単独事業)							R3年度		令和2年度活動内容と令和3年度活動計画	
主な財源	実施方法	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算額	R2年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR2年度：道路における交通の安全と円滑を確保するため、交通信号機の新設4基、改良・更新・集中化等67か所の整備を行った。 OR3年度：道路における交通の安全と円滑を確保するため、引き続き、交通信号機の新設、改良・更新整備等を行う。	
県単等	直接実施	231,953	269,433	246,168	277,368	204,651	217,527	県単等		

  

活動指標名	交差点信号機の集中制御化				R2年度			R2年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要			
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値 (A)	計画値 (B)	達成割合 A/B	1,235,048	順調	交差点信号機の集中制御化を実施し、令和2年度は、累計で784基の整備を実施したほか、交通安全施設の改良・老朽化更新を計画的、効率的に行った。			
	751基	757基	769基	777基	784基	784基	100.0%						
活動指標名	—				R2年度						1,235,048	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 交差点信号機の集中制御化については、令和2年度中の計画値である784基を整備し、取組は「順調」に推移している。また、新設道路の供用に合わせた集中制御化を行うなど、交通の安全と円滑化を図った。
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値 (A)	計画値 (B)	達成割合 A/B						
	—	—	—	—	—	—							
活動指標名	—				R2年度			1,235,048	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 交差点信号機の集中制御化については、令和2年度中の計画値である784基を整備し、取組は「順調」に推移している。また、新設道路の供用に合わせた集中制御化を行うなど、交通の安全と円滑化を図った。			
実績値	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	実績値 (A)	計画値 (B)	達成割合 A/B						
	—	—	—	—	—	—							

(2) これまでの改善案の反映状況

令和2年度の取組改善案	反映状況
・交通渋滞の現状を把握し、効率的・計画的な施設整備に必要な予算を確保して事業を推進するとともに、交通安全施設整備に必要な設計委託を推進し、業務の合理化・効率化を図る。	・設計委託による工事の早期執行、交通量調査、信号機データ入力作業委託等に よる成果物を活用した効果的な新設、改良、更新を行った。

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因	○外部環境の変化
・交通安全施設整備にかかる知識習得に時間を要し、予算執行体制が十分に確保できないことから安定的な執行体制を確立することが必要である。	・道路新設に合わせて迅速かつ適切に交通安全施設整備を設置するため、道路管理者との綿密な連携を図る必要がある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・信号制御をより高度化してきめ細やかな交通管制を運用するために、更なる効率的・計画的な施設整備の推進が必要である。
- ・業務委託予算を充実させて、業務の合理化を図ることが必要である。

4 取組の改善案 (Action)

・交通渋滞の現状を把握し、効率的・計画的な施設整備に必要な予算を確保して事業を推進するとともに、交通安全施設整備に必要な設計委託を推進し、業務の合理化・効率化を図る。
---